

リ、或ハ真柱ヲ切ラレテ、九層計殘ルモアリ、

〔總見記 十七〕羽柴秀吉寶物頂戴并城介殿被進種々名物事

今度羽柴筑前守播磨但馬兩國退治シ、近日上著スベク候條、御褒美トシテ不動國行ノ御腰物、并ニ名物ノ乙御前ト云茶釜可被下候間、取出シ置相渡スベキ由被仰付、誠以筑前守戰功ノ至恩、忝次第、面目ノ義ナリ、

〔總見記 二十一〕大臣家御馬揃事

同月○天正九年二月九廿四日、越州ヨリ罷上ル柴田修理進勝家、同伊賀守勝豐、甥ノ三左衛門勝成、彼國ノ

拜領忝キ由各御禮申上ル、獻上物太刀一腰國光、馬代銀子千兩、黃金三百兩、蠟燭千挺、奉書ノ紙千

束、綿千把、絹五百疋、進上仕畢ス、翌朝御饗應下サレ、御自身御手前ニテ御茶立下サレ、剩ヘ先考備

後守殿○織田信秀ヨリ相傳ノ名物、姥口ト云フ茶釜拜領ス、是勝家數年懇望セシムル所ナリ、

〔老人雜話 下〕太閤○秀吉豊臣の時分、茶釜の名物は、菊水の釜とて、菊と水とを紋に付たる釜あり、口廣

くはた壹寸許のこりたる程也、蓋は藥罐の様にうちきせ蓋なり、蒲生家に有し物とぞ、

今公方家に有し大講堂と云釜は叡山より出たり、大講堂と云字を釜の腹に横に鍛付たり、丁酉炎上に滅す、是も口濶し、

〔渡邊幸庵對話〕一小笠原先右近將監忠政殿に、古蘆屋の釜に須磨と申候名物有之候、然る處一年

火事に土藏七ツ迄燒失、右之釜も滅申分に候、去共灰の中に燒殘り申候哉、古金買の手に渡り、夫

右近將監殿家老名字落主馬買請申候、名物の須磨に形も似申候、但さびくさり候て雨にさらし

能致し可申とて、外に晒し置申候、其内主馬死去、子息は幼少ゆへ、家來中相談にて、當分不入道具

拂申候、彼釜も其内に成候て、或人買請申候、其外茶道具をも一所に買請申候、若其内に掘出しも

候哉と、色々を改め吟味候處に、釜の名物帳有之、須磨に形の似たると申者有之候、總て古蘆屋に